



2019年6月14日 ~ 2019年6月21日

2019年6月25日

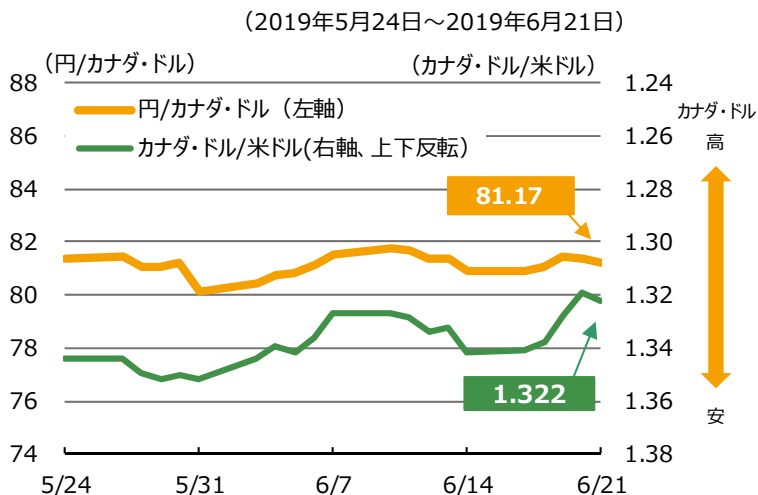
先週の回顧

カナダ・ドルは、対円でおおむね横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回り、カナダ銀行（中央銀行）の利下げ観測が後退したことから、カナダの金利は上昇しました。カナダ・ドルはFOMC(米国連邦公開市場委員会)で利下げ観測が強まったことや原油価格の上昇を背景に対米ドルでは値を上げたものの、対円ではおおむね横ばいになりました。

経済指標では、CPI以外に小売売上高が発表になっており、市場予想を下回る結果になったものの、前月の数値が上方修正されたため、市場に与える影響は限定的となりました。

カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

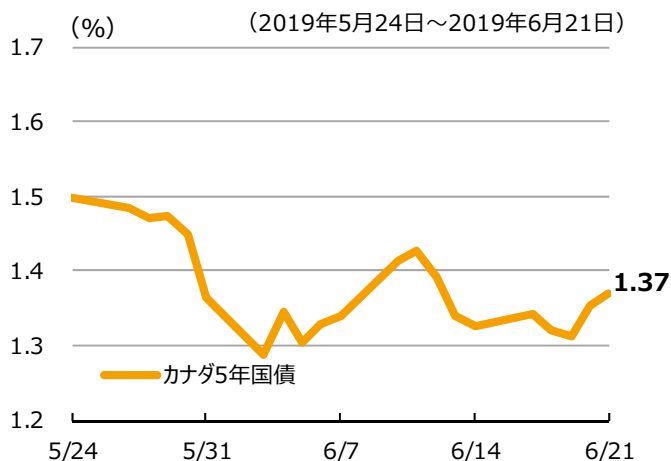
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

今週の見通し

今週、カナダでは4月のGDP（国内総生産）の発表が予定されています。CPIの上振れを受け、カナダの利下げ観測が後退しているため、結果に注目が集まります。

足元では、欧米で金融緩和観測が強まる中、カナダに関しては政策金利の年内据え置きの見方が優勢になっているため、金融政策の方向性の違いからカナダ・ドルが堅調に推移することが期待されます。また、米国が産油国であるイランに対して追加制裁を検討していることから、原油価格は上昇しており、カナダの通貨、金利を下支えすることが見込まれます。

カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。